

「名作文庫」通信



特集「映画になった名作」

2016年

冬号

新しく入った本

「名作文庫」に新しく入った本をご紹介します。以前、ご紹介できなかった本も含まれております。一部、保存庫に所蔵されているものもあります。1階カウンターにてご請求ください。



茶の本

【著】岡倉 覚三 【訳】村岡 博

【刊】岩波文庫 【資料番号】1011920558

茶道の理想は、禅でいうところの「自性了解」の悟りの境に至ることにある。「茶」を西洋人に理解できるよう、英文で書かれたものの邦訳版。単なる茶道の概説書ではなく、茶道の精神に基づいた独自の日本文明論ともいうべき名著。

本を読む本

【著】M・J・アドラー/C・V・ドーレン

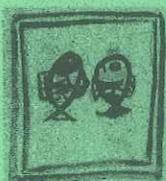
【訳】外山 滋比古/榎 未知子

【刊】講談社学術文庫 【資料番号】1012217764

本書は、1940年米国で刊行されて以来、世界各国で翻訳され読みつがれてきた。読むに値する良書、読書の本来的意味を考え、知的かつ実際の読書の技術をわかりやすく解説。初級読書～最終レベルにいたるまでを具体的に示し積極的な読書へと導く。自らを高める読書への最高の手引書。

御馳走帖

内田百閒著



御馳走帖

【著】内田 百閒

【刊】中公文庫 【資料番号】1012217756

朝はミルクにビスケット、昼はもり蕎麦、夜は山海の珍味に舌鼓をうつ、ご存じ食いしん坊内田先生が、幼年時代の思い出から戦中の窮乏生活、また知友と共にした食膳の楽しみに至るまで、食味の数々を愉快地綴った名随筆。



宝島

【著】ロバート・L・スティーブンソン 【訳】鈴木 恵

【刊】新潮文庫 【資料番号】1012162820

「宝島」の地図を手に入れた少年ジムは、医者のリヴジー先生や一本足の船乗りシルヴァーらと財宝を探しに出帆した。ところが海賊どもの反乱が勃発。単独行の果て、ジムは宝のありかにとどり着くが…。不朽の冒険物語を新訳。



ノラ

【著】内田 百閒 【刊】中公文庫

【資料番号】1012222509

ふとした縁で育てた野良猫のノラ。家に居つき病死した迷い猫のクルツ…。愛猫探しに英文広告を作り、「ノラやお前はどこへ行ってしまったのか」と悲嘆にくれ、野垂死の猫に毎日来診を乞う。老百閒先生のあわれにもおかしく、情愛と機知とに満ちた愉快な連作14篇。

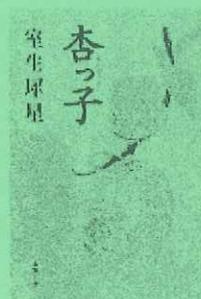


風の又三郎

【著】宮沢 賢治 【刊】角川文庫

【資料番号】1012217749

山の谷川の岸にある小さな小学校に、大風の吹いた朝、ひとりの少年が転校して来た。谷川の小学校の子供たちと、風のように去って行ったふしぎな転校生を通して、未知のものへの畏怖や憧憬を生き生きと描く。「祭りの晩」など9編を収録。



杏っ子

【著】室生 犀星

【刊】新潮文庫 【資料番号】1012220172

数奇な運命の下、小説家として名を成した平山平四郎の生涯と、その娘杏っ子の生々流転の人生を描く長編。父と子の情愛と絆を繊細に描き、人生の底にある澱みを鋭く抉り出す。数々の浮沈を生きた著者が「人生の句読点」として描いた自叙伝的小説。

映画になった名作

時代を感じさせるモノクロームのフィルムから現代の映像技術を駆使したものまで、多くの名作が映像化されています。原作となった作品の中から名作文庫に収録されている作品をご紹介します。



誰がために鐘は鳴る (上)

【著】ヘミングウェイ 【訳】大久保 康雄

【刊】新潮文庫 【資料番号】1012001960

1936年拡大する戦争の只中、運命に翻弄される悲恋とそれを乗り越え信ずるものために戦う若者を描く感動作。1943年、ゲーリー・クーパー、イングリッド・バーグマン主演でハリウッド映画化、世界的大ヒットとなった。



レ・ミゼラブル (1)

【著】ユゴー 【訳】西永 良成

【刊】ちくま文庫 【資料番号】1011926555

ナポレオン1世後のフランスを舞台に、僅かな罪から徒刑囚となった男がついには偉大なる聖人として生涯を終えるまでを描く叙事詩的小説。ブロードウェイミュージカルとして世界を席巻し、日本でも愛され続ける。2012年には映画化され、アカデミー賞、ゴールデングローブ賞など数々の賞を受賞。

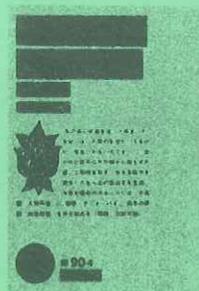


グレート・ギャツビー

【著】フィッツジェラルド 【訳】小川 高義

【刊】光文社古典新訳文庫 【資料番号】1011685508

無一文の身から巨万の富を築き上げたギャツビー。すべては失われたかつての恋人を取り戻すためだった。彼の異常なほどの情熱は、自身のみならず周囲のすべてを巻き込んでゆく。1974年ロバート・レッドフォード、2013年レオナルド・ディカプリオ主演で映画化。



人間失格・グッド・バイ

【著】太宰 治 【刊】岩波文庫

【資料番号】1011546346

「恥の多い生涯を送って来ました。自分には、人間の生活というものが見当つかないのです」世の中の営みの不可解さに絶えず戸惑いと恐怖を抱き、生きる能力を喪失した主人公の告白する生涯。太宰が最後の力をふりしぼった長篇。絶筆『グッド・バイ』も併せ収める。太宰治の生誕100年記念として2009年映画化。

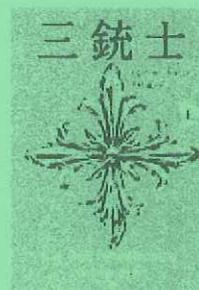


海と毒薬

【著】遠藤 周作 【刊】新潮文庫

【資料番号】1011764584

戦争末期、九州の大学付属病院における米軍捕虜の生体解剖事件を小説化。著者の念頭から離れることのない問い「日本人とはいかなる人間か」を追究する。神なき日本人の“罪の意識”の不在の無気味さを描き、今なお背筋を凍らせる問題作。1986年映画化。



三銃士 (上)

【著】アレクサンドル・デュマ 【訳】竹村 猛

【刊】角川文庫 【資料番号】1011738257

17世紀フランスを舞台に描かれる、銃士志願の青年の恋と友情の物語。都会に出て来た青年貴族ダルタニャンは、名高い〈三銃士〉と出会い、宰相リシュリューの陰謀を挫くため、王妃の首飾りを取りもどす命がけの冒険が始まる。文豪デュマの傑作活劇。1993年、2011年と二度の映画化。



二十四の瞳

【著】壺井 栄 【刊】角川ソフィア文庫

【資料番号】1012217236

昭和の初め、瀬戸内海の小島に赴任したばかりの大石先生と、個性豊かな12人の教え子たちふれあいと絆。しかし戦争が彼らの運命を大きく変えてゆく。戦争のもたらす不幸、貧しい者が常に虐げられることへの厳しい怒りを訴えた不朽の名作。1954年、1987年と二度の映画化。

あの人、あの一言。

名作に登場する忘れがたい人物やセリフ、そして文章をピックアップ。
心の糧に、座右の銘に、雑談の種に。

彼女は彼に背を向けて寝ると、
無心に目を閉じ、少し首を伸ばした。
それから合掌した。彼は稲妻のように、
虚無のありがたさに打たれた。

川端 康成「禽獣」新潮文庫

川端康成はその孤独を抜きにしては語れない—という。虚弱に生れ、幼少時に親族すべてを失い、天涯孤独の身の上のなったことが彼に独特の孤独観をもたせたのだろうか。ここに紹介した文は、日々なんとなしに流され生きる男が、年若い娘を道連れに死のうとする場面である。彼女が死に際して見せた無心の表情は、彼に「虚無のありがたさ」という衝撃を与え、自殺願望を断ち切る。「死」というものへの複雑な思いが見え隠れする一場である。

「名作文庫」で読める川端 康成の作品

伊豆の踊子・禽獣【刊】角川文庫 【資料番号】10100144598

雪国【刊】角川ソフィア文庫 【資料番号】1011960281

みずうみ【刊】新潮文庫 【資料番号】1010152450

伊豆の踊子・温泉宿【刊】岩波文庫 【資料番号】1011189980

雪国【刊】岩波文庫 【資料番号】1011799879

浅草紅団・浅草祭【刊】講談社文芸文庫 【資料番号】1010417523

川端 康成（かわばた やすなり）

1899年（明治32年）6月14日～1972年（昭和47年）4月16日
大阪市天満此花町生れ。

東京帝国大学卒業。在学中に友人と第六次「新思潮」を刊行、「招魂祭一景」を発表、文壇に出ました。横光利一らと「文芸時代」を創刊し、新感覚派の代表作家となります。著作は第一創作集『感情装飾』に始まり『伊豆の踊子』『浅草紅団』『禽獣』『雪国』、戦争を挟んで鎌倉が舞台の『千羽鶴』『山の音』や『眠れる美女』『古都』『片腕』など。戦後は日本ペンクラブ会長も務めるなど、日本を代表する作家として多くの功績を残しました。

昭和10年浄明寺に転入後、二階堂へ転居し、昭和21年から没年まで長谷に居住。鎌倉ペンクラブや鎌倉文庫にも尽力するなど精力的に活動しましたが、昭和47年にガス自殺を図りこの世を去りました。

昭和43年「雪国」で日本人として初のノーベル文学賞を受賞。「日本人の心情の本質を描いた、非常に繊細な表現による、叙述の卓越さ」として広く海外にも認められました。受賞式での記念講演を書籍化した「美しい日本の私」が出版されました。





いまこそ教養、「名作文庫」。

下井草図書館だけにある特別な本棚、「名作文庫」。

一度は読んでおきたい古今東西の名著名作を
ハンディなサイズの文庫版・新書版で集めた本棚です。
同じ作者の同じ作品がいろいろな本でそろっているの
で、1冊ごとに違う解説、違う注釈、違う翻訳に
触れることができます。

題名だけしか聞いたことなかったあの作品、
いまこそ手にとってご覧になりませんか？

よりディープに楽しみたいあなたには 『名作文庫 蔵書紹介』『いまこそ名作！読書会』

実は「名作文庫」の一部は保存庫にしまわれています。

でも『名作文庫 蔵書紹介』を見れば大丈夫！

保存庫の本のこともバッチリ載っています。

読みおわって熱い感動を誰かに語りたい…と思ったら、
『いまこそ名作！読書会』にその思いを投稿しましょう！
投稿レビューは常時公開！同じ思いの誰かがいるかも。

季刊「名作文庫」通信

3・6・9・12月発行

杉並区立下井草図書館